IMS cafe´

外国人研究職員の紹介

Prof. Dah-Yen Yang

from Taiwan

Yang 先生は2009年2月1日より1年間、生体分子情報研究部門の外国人客員教授として滞在される予定です。計算分子科学の分野の方ですが、最初韓国でのアジアコアの会議で先生の講演をお聴きし、計算機シミュレーションによりタンパク質の色々な水素結合について詳細な解析をしておられ，興味の対象が生体材料ということで、私と近いと感じました。それ依頼交流をしています。

Yang先生は1957年に台湾でお生まれになりそのまま大学院卒業まで台湾ですごされました。お父上は中国Jiangxi province より中国の市民戦争のさなかに台湾に移住されたとのことです。国立台湾大学で化学を専攻しそこで化学や物理の基礎学力を身につけました。国立台湾大学の修士課程に進学し非平衡統計力学や熱力学を勉強された後，1982年に米国ミシガン州立大学にPhD学生として入学され，最初の3年間はphoto-induced mass spectroscopy の実験研究を行いましたが、満足できず、その後理論統計力学の分野にもどり、非断熱過程電荷移動の研究をおこなわれたとのことです。

台湾に帰国し1991年に台湾の原子分子研究所（IAMS）にAssistant Researcherとして戻り、gated escape of ligand や molecular motorのあたらしい理論を開発し、大規模MDシミュレーションやナノ材料シミュレーションの研究を行っています。奥様のSheh-Yi Sheu（許世宣）さんも生命科学の研究者で台湾の国立陽明大学の教授をしておられます。

（宇理須恒雄　記）